大野城まどかぴあ男女平等推進センター　アスカーラ
2015. 11. 1 発行　　第 200 号

11月 すてっぷ

アスカーラとは　大野城まどかぴあ男女平等推進センターは、平成 25 年 4 月 6 日（土）のリニューアルオープンに伴い、愛称を募集しました。アス+スカーラの造語で、アスは明日・未来の意味で、スカーラはイタリア語で、階段やはしごの意味。明日に向かって、みんなで 1 歩づつ階段を上がっていくように男女平等を推進していきましょうという意味です。これからは、アスカーラと呼んでください。

平成 27 年度「女性に対する暴力をなくす運動」ポスター

▼CONTENTS▼

・事業レポート「市民グループ活動支援事業　ままいるの家族の笑顔応援講座」
　　「あなたとわたしのための元気塾　第 5 回」
・アスカーラ　講座・イベント案内
・男女平等推進センター情報誌「すてっぷ」200 号によせて
・キッズルームでこんにちは
・女性に対する暴力をなくす運動について
・相談室のご案内
・ひとりごと
・今月のアスカーラ

アスカーラ市民活動支援事業
ままいるの家族の笑顔応援講座
「子どもの自立につながる家族のコミュニケーション力」
日 にち:9 月 10 日(木)
講　師:佐藤　剛史さん
（九州大学大学院農学研究院助教）

と～んでもない　とんでる先生

佐藤先生は農学博士、九大助教と硬い肩書だが、いわゆる「ただ」の大学の先生ではない。大学や天神のビルの屋上に田圃を作ったり、九大ブランドの純米大吟醸「九州大吟醸」の製造にも関わる人だ。著書の『すごい弁当力!』『もっと弁当力!!』で食・農業・家族・教育を語り、講演会も年間 100 回を超えるほどの大人気ぶり。本日のスタイルは真っ赤なポロシャツ姿。肩書にとらわれない、生き方がとんでる先生だ。

イントロで流れた「子育て真っ最中のママに」聞かせるスライドショー。～ひとりじゃないよ～と呼びかける…。ふと見ると前席の女性の頬に大粒の涙がポトリ。あちこちで顔にハンカチを当てる姿が…。

女性の脳はこんなにすごい！

女性の脳は、五感を通じ直感的に認識する、感情的な右脳型。男性は情報処理や空間能力にたけた、論理的な左脳型。おまけに女性は脳梁（のうりょう・右脳左脳の情報をやり取りする経路）が男性よりも 20%も太いため、左右の脳の連係が十数倍～数十倍も頻繁に行われる。会話も音の変化を右脳で感じ、その意味を左脳で判断するなど総合的に対応。また同時並行作業能力があるため、子どもをあやしながら家事を行ったりと複数のことが出来る。さらに男性には無い光の第 4 の色覚細胞（紫）を持つ人もいる（通常、人の眼は 3 原色に対応）。そのため赤ちゃんの顔色の変化を見逃さずに対応できる。これに対して、主に左脳だけの男性は、野球を見ながら妻と話も出来ない。

また、気持・意見などを伝えるとき、女性は取り留めもないことでも共感を求める。一方男性は簡素に語る。話しても解決しないような問題は話題にしない。ちなみに女性は、1 日 2 万語しゃべらないとストレスがたまり、男性は 8 千語以上になるとストレスを感じるという。

相違があるからこそ男女はお互いを支えられるので、女脳と男脳の違いを理解することは必要だ。そうでないと女性の「あなたは鈍い」の言葉に男性はブチ切れるという羽目になる。

話すことよりタイセツなことは

コミュニケーションは①言語的（話や文字など）と②非言語的（顔の表情、身振り手振り、声のトーンなど）に分けられるが、他人が受け取る情報の 6 割から 9 割が非言語的コミュニケーションだそうだ。

「子どもの自立につながる家族のコミュニケーション力」でもっとも大切なのは相手の幸せを心から願い、相手を信じることに尽きる。手法の一つであるコーチングは、対話（質問）によって相手のやる気を引き出す技術であるとされる。子どものやりたいことを見つけ出し、どうしたら実現できるかを聴きだし、行動を促し、サポートする。信頼に基づくコミュニケーションといったところであろうか。そして「やろうと想ってやっていないこと」を非難するよりも、「どうしたらやれるか」の答えを子ども自身の口から引き出すことが大切。子どもはみな、失敗する権利を持っていて、失敗することで成長する。親（大人）が、その失敗を恐れずに見守っていくことで自立を促すことになる。

子どもに接するときは、生の大切さ、食の大切さ、子育ての大切さ、愛情の大切さを常に考えて行動する。子育てに正解はない。孫を見て、はじめて自分の子育てがどうであったかに気づく。

会場は子育て真っ最中の若いお母さんで一杯。講話の合間あいまに日頃の不平不満や面白かったことなど、お隣さん同士で話し合う研修もあった。初対面とは思えぬ熱のこもった会話が弾み、楽しく和やかなものだった。

（情報サポーター　原田 久）

祝 すてっぷ 創刊 200 号

男女平等推進センター情報誌「すてっぷ」は、1999 年 4 月の創刊以来、今号で 200 号を迎えました！
これまで応援していただいた多くの皆さま、心より感謝申し上げます。

公益財団法人大野城まどかぴあ
館長　林田　スマ

記事の中に学びの感動がキラキラ、タイトルには明日への希望が。
男女共同参画社会の実現という目標に向けての歩みとともに 200 号達成です。
おめでとうございます。そしてありがとうございます。
20 周年を前にした、まどかぴあの大きな大きな宝物です。

大野城まどかぴあ男女平等推進センター アスカーラ　　所長　白水　紹子

「男女共同参画社会の実現」に向け、さまざまな取り組みを推進していく上で、その事業や活動について広く市民の皆様にお知らせをしているのが「すてっぷ」です。男性も女性も明るく生き生きと楽しく生きるための潤滑油の役割を果たしていると自負しております。また、一般市民によるサポーターの皆様との共働で編集制作しているというのも大きな特徴です。長く続けてこられたのもサポーターの皆様の熱い情熱と志、するどい感性とわき出る知恵の賜物と心から敬服しています。

これからも、大野城市の男女共同参画社会をめざす大きな原動力として発行していきますので、市民の皆様のご愛読をどうぞよろしくお願いいたします。

すてっぷ 100 号

すてっぷ 150 号

情報サポーター　森　敏子

男女平等推進センターで壁新聞「**ほっぷ**」と情報誌「**すてっぷ**」が同時に創刊された時、ずっと関わってきた PTA 新聞を作る感覚で、軽く参加した私がこの記事を書くことになり光栄です。

「ほっぷ・すてっぷ」とくれば「ジャンプ」。私はジャンプできたでしょうか？　講師へのインタビューや同行取材、情報サポーター養成講座など「**すてっぷ**」を通して得た体験は数多くあります。そして出会えた人たちと共感しあえたことが、活動に永く携わってこれた支えだと思います。

これからも、「なにそれ？　へーそうなんだ！面白い！！」を求めて情報サポーターとしての活動を楽しみ、ジャンプし続けたいと思います。

これからも「**すてっぷ**」をよろしくお願いします。

活動や養成講座の様子

＜利用時間＞
10:00～15:00
＜場　　所＞
まどかぴあ3階

※予約はいりません
※参加料は無料です
※未就学児が対象です

☀今月のお楽しみ情報☀

11 月 3、10、17、24 日（火）10:30～
　担当：おひざでだっこ「おはなしのへや」
ぴよぴよ（妊娠中・0 歳児）第 1・3 火曜
よちよち（1・2 歳児）　　第 2・4 火曜

11 月 25 日（水）10:30～
　担当：大野城子ども劇場

※毎週木曜日 10：30～12：00 は、
　まどかぴあの託児でおなじみの託児サポーター“ママ・ポケット”の見守りがあります。
　子どもさんとゆっくり遊ぶ時間を楽しんでください。

今月の元気キッズ！

たいきくんは、10 か月。笑顔がキュートな男の子です。ママとどこでも一緒にお出かけしているから、人見知りもしません。いつもニコニコ顔で回りを HAPPY にしてくれます。つかまり立ちもとっても上手になりました。大きくなあれ！
たいちゃん❤

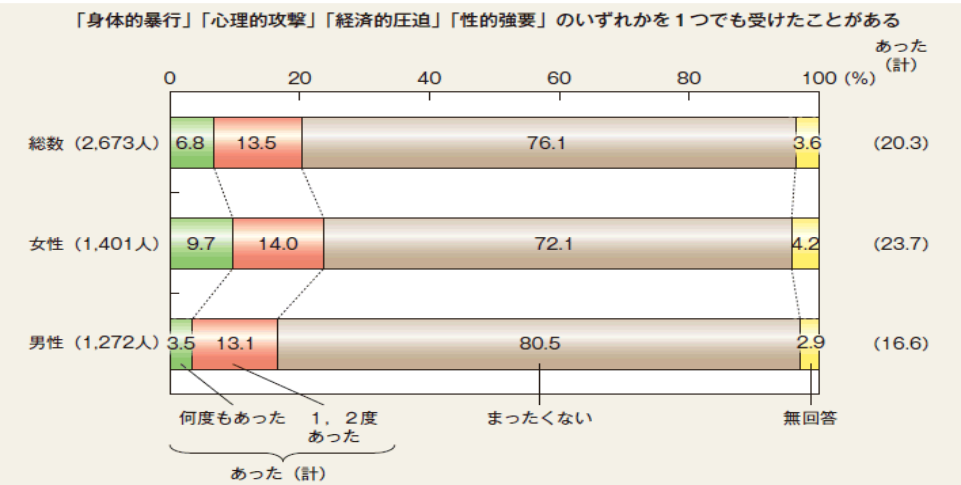
女性に対する暴力をなくす運動
11 月 12 日（木）～25 日（水）

「一人で悩まないで。早めの相談が問題解決への第 1 歩です。」

「女性に対する暴力撤廃国際日」の 11 月 25 日までの 2 週間は、毎年「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間です。女性への配偶者等（夫婦・親子・友人・知人・・・）からの暴力、性犯罪、売買春、セクシャル・ハラスメント、ストーカー行為や人身取引等、女性に対する暴力は、女性の人権を侵害するものであり、決して許される行為ではありません。

　性別や年齢などに関係なく、ひとりひとりが個性を活かし前向きに生きることのできる幸せな社会が男女共同参画社会です。その実現のために、大野城まどかぴあ男女平等推進センターでは、無料相談**＜総合相談：平日 9 時から 17 時　他に月 4 回の法律相談・臨床心理士による相談＞**を実施し、啓発周知のための講座等も行っています。期間中は 3 階アスカーラギャラリーでパネル展示もあり、各種相談機関も紹介していますので、ぜひご覧ください。

配偶者からの被害経験



内閣府　男女間における暴力に関する調査（平成 26 年）より

女性の約 4 人に1人は配偶者から被害を受けたことがあり、約 10 人に 1 人は何度も受けていることがわかります。
**　また、配偶者暴力支援センターへの相談件数も年々増加しています。**

パープルリボンは、女性に対する暴力をなくす運動のシンボルマークです。

あなたとわたしのための元気塾　第５回

「自分らしく生きる～仕事と育児のバランス～」

日にち:10 月 3 日（土）

講　師:小津　智一さん

（株式会社 OZ Conpany 代表取締役

NPO 法人 ﾌｧｻﾞｰﾘﾝｸﾞ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ九州　代表理事）

生活感が世を牽引

初秋、セプテンバーウインドに誘われて二丈岳に登った。眼下に広がる糸島の海岸線と遥かなる玄界灘の絶景に息を呑んだ。講師の小津さんは、転勤のある大手企業を脱サラしてその糸島在住という。趣味がサーフィンで、海の近くに住みたかったとか。なんか分かるなぁ～。外見はホワイトジーンズが似合うスレンダーなイケメンで、人生充実のアラフォーそのまんまである。

脱サラ後の起業が難航した経緯を聞いたが、起業支援は割合順調に獲得できたよう。ニーズへの戦略に説得力があったのだろう。

子育てから社会問題に気付いたと言うが、男性でこんなに生活感のある把握は珍しい。OZ Company は、事業所内保育事業やイベント保育事業を手掛ける。初期段階ではプレゼンを理解してもらっても、実績のある他社に出し抜かれた。家庭も仕事も共倒れの危機に瀕して、18 時半帰宅を最優先に 4 時半起きでスケジュール調整。即ち家事や子育ての共有を図った訳だが、結果、妻が一念発起して保育の資格を取り夫婦の目的が確立した。単発の臨時受注が突破口となって、7 年で保育士 80 名を抱える事業に発展している。余裕が出来始めた頃、住まいのマンションでパパ友ネットワークを作った。他人の子を知り注意が出来るのは地域子育て環境の飛躍である。また、異業種交流は仕事に繋がることもあり、西日本新聞から取材を受けて写真と活動が紙上に紹介された。

代表理事を務めるファザーリング・ジャパン九州（FJQ）のミッションは、父親であることを楽しめる社会の実現である。育児は期間限定のプロジェクトX、能力開発の機会であり、アナザーワールドへのチケットとなる。その成果として、男女共同参画社会・ワークライフバランスの推進、児童虐待や DV の予防、少子化の歯止め等の社会改善が期待される。成長期から成熟期へ移行した社会のムードは、「育てる男が、家族を変える。社会が動く。」とするイクメンプロジェクトを受け入れた。新しい時代の理想の上司を育てていこうとするイクボス企業同盟には大手 30 社（9/24 現在）が加盟。11/21 には全国初のイクボス保育事業者フォーラム（JR 博多シティにて）も開催される。

家庭・仕事は表裏一体である。人生は一度きり、Work（仕事）×Life（家庭）×Social（地域）のすべてを楽しもう！　一人一人の「意識」と「行動」で社会が変わると小津さんは力説する。「小津さんファンで満席を想像して参加したのに、男性はたった二人のこれが現状」と子連れの男性受講者。後に続く有志を開拓する機会とすれば、講座の周知徹底を洗い直さねば……。が、効果があるのは企業への働きかけだそうだ。今ある自分の環境を真摯に見つめてアクションすることが、こんなにも完成度の高い人を作り上げる。活動の拡がりに感動を覚えた。

(情報サポーター　山口 郁子)

育てる男が、家族を変える。社会が動く。

FJQ FATHERING JAPAN Q-SHU

育 MEN イクメンプロジェクト

イクボス 企業同盟

NPO 法人ファザーリング・ジャパン九州：「笑っている父親」を増やすことを目的に「九州男児」なパパ達を支援するパパコミュニティー（略称：FJQ）。

九州イクメンプロジェクト：子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性（イクメン）が増えることで、家族のあり方や、社会を大きく動かしていこうというプロジェクト。

イクボス企業同盟：女性活躍推進やイクメンなど社員が多様化する時代において、「イクボス」の必要性を認識し、積極的に自社の管理職の意識改革を行って、新しい時代の理想の上司（イクボス）を育てていこうとする企業のネットワーク。

11月の男女平等推進センター

日	曜	予　　定
1	日	
2	月	市民グループ活動支援事業（赤ちゃん集会！） 簿記３級㉘ 福祉住環境２級⑫
3	火	
4	水	休館日
5	木	大野城市男女共生講座⑤ ママの未来チャレンジ① 福祉住環境２級⑬
6	金	パパ・ママのための読書タイム
7	土	まどかフェスティバル パパ・ママのための読書タイム
8	日	まどかフェスティバル
9	月	市民グループ活動支援事業（赤ちゃん集会！） 建設業経理①　福祉住環境２級⑭ 託児サポーター定例会
10	火	啓発サポーター定例会
11	水	建設業経理②
12	木	DV防止街頭キャンペーン ママの未来チャレンジ② 福祉住環境２級⑮
13	金	建設業経理③ パパ・ママのための読書タイム
14	土	市民グループ活動支援事業（ふくおか県翼の会） パパ・ママのための読書タイム
15	日	
16	月	建設業経理④
17	火	情報サポーター編集会議
18	水	休館日
19	木	ママの未来チャレンジ③ 建設業経理⑤
20	金	市民グループ活動支援事業（福岡友の会） 建設業経理⑥ パパ・ママのための読書タイム
21	土	パパ・ママのための読書タイム
22	日	
23	月	
24	火	
25	水	建設業経理⑦
26	木	ヘルシーエクササイズ㉓
27	金	市民グループ活動支援事業（福岡友の会） 建設業経理⑧　事業サポーター定例会 パパ・ママのための読書タイム
28	土	市民グループ活動支援事業（子ども劇場） パパ・ママのための読書タイム
29	日	
30	月	建設業経理⑨

相談のご予約・お問合せは・・・
☎092－586－4035

☆大野城まどかぴあ 相談室のご案内☆

全て相談は無料です。

まずはお電話でお問い合わせください。

■総合相談■　月曜～金曜　9時～17時

※土・日・祝日と休館日はお休みです。

面接相談（要予約）と電話相談ができます。

■臨床心理士による相談■　火曜・木曜　月4回

面接、電話相談。予約してください。

生き方、夫婦・親子関係、対人関係、仕事のこと、DVの相談など、気持ちの整理をしませんか。

臨床心理士が相談を受けます。

＜今月の相談日程＞

11月5・12・26日（木）、10日（火）

■法律相談■　毎月第1～4木曜日13時～16時

面接相談のみ。予約してください。

弁護士が相談を受けます。

■おしごと相談■　毎月第2水曜日10時～12時

面接相談のみ。予約時に①か②をお申し出ください。

①男女不問：賃金未払いや雇用形態、セクハラ等、仕事の事なら何でも労働相談員が受けます

②再就職を目指す子育て中などの女性：就職全般の相談を就業アドバイザーが受けます

＊ひとりごと＊　第二次世界大戦が終わった10年後に生まれた私は、母の実家に遊びに行く度に十円玉を握って「はいきゅうしょ」にお菓子を買いに行っていました。戦時中、食糧は国の統制下にありました。お菓子がたくさんあって楽しい場所は、国民が食糧を手にいれるためにお金と切符を持っていくところだと後で知りました。戦時中は飼っていた犬が毛皮を作るために、供出させられていました。動物園の動物は危険だということで殺処分されました。いやでも拒否できない理不尽な環境に恐怖を感じました。戦争がないだけでは平和な社会ではありません。誰もが自分らしく生き生きと生活できる社会こそが平和な社会です。そして、その最低の条件が戦争のない社会です。

西日本新聞の春秋に「茶色の朝」というフランスの寓話が紹介されていました。そこには、疑問を抱きながらも流されて後悔する市民と、国が一つの色になっていく怖さが書かれています。疑問を持っても、何もしないでいると、取り返しのつかないことになると警告しています。近年、憲法や制度が目まぐるしく変わろうとしています。それは本当に国民のためになるのだろうかと考えていこうと思う「戦争を知らない」私です。

（情報サポーター　ちびまま）

＜編集＞男女平等推進センター 情報サポーター　＜発行＞大野城まどかぴあ男女平等推進センター アスカーラ
〒816-0934　福岡県大野城市曙町2-3-1　ホームページアドレス http://www.madokapia.or.jp/
TEL／092（586）4030　FAX／092（586）4031　相談専用電話／092（586）4035